

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に強い多職種がん専門医療人養成コース(インテンシブコース)						
対象職種・分野	多職種(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、ソーシャルワーカー)を対象						
修業年限(期間)	6ヶ月間						
養成すべき人材像	遺伝子パネル検査の実施や結果の解釈に精通しているゲノム医療の専門医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	修了要件: 必修の実習・演習に4/5以上出席し、指定されたテーマについてレポートを提出すること。 履修方法: オンラインでの講義・演習及び対面での実習・演習。						
履修科目等	<p><必修科目> がんゲノムエキスパートパネル実習(10時間)、腫瘍内科・治験症例検討カンファレンス実習(6時間)、がんゲノム外来実習(6時間) 近畿大学病院等において、がんゲノム医療療法の臨床実習を行い、遺伝子パネル検査の実施の実際を学ぶ。 実習では実際の症例のシークエンスデータを用いた解析を行い、エキスパートパネルで利用されるレポート作成を行う。 また、遺伝子パネル検査を希望されている患者の外来実習を実施し、検査前、検査後に求められる医療人からの適切な情報提供のあり方、二次的所見への対応、出口戦略へのつなげ方などを学ぶ。</p> <p><選択科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)、CS演習、SP演習、近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻「がん予防医療の遺伝カウンセリングを学ぶ多職種医療人養成コース」の受講</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん診療連携拠点病院、ゲノム医療拠点病院の人的要件に関連。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	地域で活躍するがん関連医療人に対して、座学だけではなく、ゲノム医療が現場で行われている様子を実習を通して経験して頂くことに新規性がある。 実際に症例を通じて専門家とディスカッションすることで、検査結果の解釈だけにとどまらず、遺伝子パネル検査の必要性など、治療方針の決定の実際を深く学ぶことが出来る。また、二次的所見の取り扱いを通じて、遺伝カウンセラーとの連携を学び、予防医療にも携わることを目指す。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、がんゲノム医療コーディネーター等からなる多職種が協働して行う。実習・演習に関しては、がん薬物療法専門医を指導者としたチームでの指導体制をとる。						
修了者の進路キャリアパス	大学病院、がんセンター、地域のがん診療基幹病院でのがんゲノム医療コーディネーター						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	地域におけるがんゲノム医療コーディネーターの不足を勘案し、受入れ目標人数を1人/年度と設定。						

受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5